タイトル：徳川家霊台

９世紀に弘法大師により設立されてから、高野山は様々な社会的地位の人を迎え入れています。中世日本では武士も多く訪れました。 1623年から1651年まで日本を治めていた第3代将軍の徳川家光(1604-1651)が、1643年に徳川家霊台を作りました。 家光は、日本を統一し徳川幕府を設立した祖父の徳川家康将軍(1543-1616)、そして父親の徳川秀忠将軍(1579-1632)を納めるために建立しました。

霊廟に向かって右手側は家康に、左手側は秀忠に捧げられています。実際にはこの霊台に埋葬されているわけではありませんが、これらの建物は重要文化財として国に認定されており、日本の歴史においても重要な人物である2人の記念碑です。以前、霊廟の東端には、それ以降の世代の徳川家のために尊牌堂がありましたが、1888年に火災で焼滅し、再建されることはありませんでした。

この二つの建物は、数多くの精巧な彫刻、そして美しい金属細工が施された江戸時代(1603-1867)の霊廟建築の良い例です。これらの飾りは、建築の優雅な線を活かし強調するためにありました。優雅な線というのは、縁側や手すり、入口の上にある破風板、そして、屋根の先端部にある露盤である屋根が合わさる箇所で雨漏りを防ぐものなどです。

一般公開はされていませんが、それぞれの霊台の内装も全面、巧みに、そして入念に飾りつけられました。金の上塗り、精巧な彫刻、鮮やかな絵画　－　全て、家康と秀忠という2人の将軍に敬意を表すためです。